

苦小牧市医師会
医師

山岸みどり

ピアスと金属アレルギー

近年ピアス型イヤリング（以下ピアス）の普及に伴い、金属に感作されることによって起こるアレルギー性接触皮膚炎が問題となってきました。

ピアスの装着に先立ち耳たぶに穿孔をつくる必要がありますが、最近では孔あけ用キットが市販されており、気軽に試みられるようになったのも一因かと思われまます。

赤くはれたらすぐに装用を中止

正常な皮膚は有害な物質を通さないバリアーとして働き生体を守ってくれていますが、汗をかいて皮膚が弱アルカリ性になったり、傷がついたりしていると金属を溶かし体の中に入り込ませてしまいます。このとき生体は自己を異物から守るためこれを拒絶する抗体をつくりあげます。抗体ができるアレルギーを引き起こす準備は完了し、

原因となった金属に接するたびに抗体と反応をおこし発赤、水泡などの皮膚症状を惹起（じゃつき）します。

原因となる金属としては、ニッケル、コバルトがよく知られていますが、従来安全といわれていた金でも反応が起こることが報告されてきています。

このような皮膚症状に悩まされないためには、ピアスホール

完成まで金属アレルギーを起さない素材（チタンなど）を穿孔部に装着することが大切です。18金はその二五％がニッケルなど他の金属で構成されていますから、ファーストピアスとしては危険と言えます。いったん金属アレルギーが成立すると治療には数年の歳月を要することもまれではありません。赤くはれたり湿疹（しっしん）など

が出たらすぐに金属アクセサリーの装用を中止し、原因を突き止めるために金属アレルギー検査を受けてください。

原因金属が判明したらその金属を遠ざけ、歯科治療の際にもその金属を使わないよう注意が必要です。

せっかくのおしゃれ心を皮膚炎で台無しにしないよう気を配ってください。



お問合せは、苦小牧市医師会
電話 33-4720へ